

問1 土地や人民を国家が支配し、法に基づいて政治を行う仕組みを何という？

1. 官僚制 2. 封建制 3. 徴兵制 4. 律令制

問2 律令制度において、神祇官と共に二官の一つとして行政の統括を担った機関を何という？

1. 太政官 2. 検非違使 3. 弾正台 4. 神祇官

問3 奈良時代、聖武天皇が仏教による国家の守護を目指して、国分寺の総本山として都に建立させた寺院は何という？

1. 唐招提寺 2. 東大寺 3. 興福寺 4. 法隆寺

問4 743年に発令され、新しく開墾した土地の永代私有を認めることで、土地の私有化を推進した法律を何という？

1. 三世一身法 2. 大化の改新 3. 墾田永年私財法 4. 大宝律令

問5 律令制において、中央政府から地方に派遣され、その地域の行政・司法・軍事を統括した役職を何という？

1. 地頭 2. 国司 3. 守護 4. 郡司

問6 遣唐使が日本へ招いた、苦難の末に来日して日本の仏教に大きな影響を与えた僧侶は誰？

1. 行基 2. 最澄 3. 空海 4. 鑑真

問7 正倉院にゆかりの品々がおさめられている、奈良時代の天皇は誰？

1. 天武天皇 2. 桓武天皇 3. 聖武天皇 4. 孝徳天皇

問8 743年に出され、開墾した土地を永久に私有することを認めることで、土地の私有化を広めた法律を何という？

1. 墾田永年私財法 2. 三世一身法 3. 大化の改新 4. 大宝律令

問9 奈良時代、仏教の力によって国を災いから守ろうとする思想を何という？

1. 鎮護国家 2. 仏国土思想 3. 神国思想 4. 王権神授説

問10 戸籍に基づいて6歳以上のすべての人々に田地を分け与え、そのかわりに税を徴収する制度を何という？

1. 租庸調 2. 班田収授法 3. 庚午年籍 4. 戸籍法

問11 奈良時代、政府による統制が強まる中で、民衆の間を巡り歩いて深く信仰を集めた宗教を何という？

1. 儒教 2. 道教 3. 仏教 4. 神道

問12 律令国家の統治体系として、中央から地方の国に派遣された役人を何という？

1. 里長 2. 郡司 3. 防人 4. 国司

問13 奈良時代、人口増加に伴う口分田の不足を解消するために、開墾した土地の永代私有を認めた法律を何という？

1. 大化の改新 2. 公地公民制 3. 墾田永年私財法 4. 三世一身法

問14 大伴家持らが編纂に関わったとされる、現存する日本最古の和歌集を何という？

1. 万葉集 2. 新古今和歌集 3. 古今和歌集 4. 懷風藻

問15 郡司が指揮下に入っていた、中央から派遣された地方長官のことを何という？

1. 里長 2. 防人 3. 郡司 4. 国司

問16 律令制において、中央から派遣された国司のもとで、現地の有力な豪族が任命された役職を何という？

1. 惣領 2. 郡司 3. 国司 4. 里長

答え合わせ・解説

問1	答え 4 律令制	律令制は、中央に省を置く官僚機構や、地方への国司の派遣、戸籍をもとにした班田収授法などの制度によって構成されています。これにより、国家による土地と人民の直接的な統治が実現しました。
問2	答え 1 太政官	太政官は、八省を統括し、国政の運営を担当する最高機関です。長官である太政大臣を中心に、左大臣、右大臣などが政治の実務を行いました。
問3	答え 2 東大寺	聖武天皇の命により、各国の国分寺を束ねる総本山として建設されました。特に本尊である大仏の建立は、当時の国家プロジェクトとして非常に大きな規模で行われました。
問4	答え 3 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地を一定の条件のもとで永久に私有することを認めた制度です。それまでの「公地公民」の原則を大きく転換し、貴族や寺院による土地開発を促進しました。
問5	答え 2 国司	「国司」は、朝廷から地方の「国」に派遣される長官です。その国の政治・裁判・軍事など全般を管理する非常に重要な職務でした。任期があり、現地の実務を担う郡司を指揮して効率的な地方支配を行いました。
問6	答え 4 鑑真	鑑真は唐で名高い高僧でしたが、日本の僧侶からの要請に応え、5回もの失敗や失明という苦難を乗り越えて6回目ようやく来日を果たしました。奈良の東大寺に戒壇を築き、多くの僧に戒律を授けました。また、その後には唐招提寺を開いています。
問7	答え 3 聖武天皇	聖武天皇は、各地に国分寺を建て、東大寺には大仏を造立しました。彼の没後、光明皇后がその冥福を祈り、愛用していた多くの品々を東大寺に奉納したものが、現在の正倉院の宝物となっています。
問8	答え 1 墾田永年私財法	政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定しました。これにより、新しく開墾した土地の私有が永久に認められるようになりました。それまで制限されていた土地所有が可能となったため、人々は競って開墾を行い、生産性を高めようとしてしました。
問9	答え 1 鎮護国家	鎮護国家とは、仏教の加護によって国を安定させ、平和を守ろうとする思想です。聖武天皇は、この思想を国家運営の柱とし、東大寺に巨大な大仏を造立しました。また、あわせて全国に国分寺や国分尼寺を建立させるなど、仏教による統治を強めました。
問10	答え 2 班田収授法	班田収授法は、6歳以上の男女に口分田という田地を貸し与え、その人が亡くなれば国に返させる制度です。この田地から収穫された米の一部が税として国家に納められました。
問11	答え 3 仏教	当時の仏教は、国家の公的な儀式のみならず、次第に一般民衆の生活や心にも浸透していきました。行基などの僧侶が、禁じられていた私的な布教活動を行い、民衆を救済するために活動したことで、広い層に広まりました。
問12	答え 4 国司	国司は、その土地の税の徴収や戸籍の管理、裁判など、地方行政全般を担いました。任期を定めて中央から派遣することで、地方での権力固着を防ぐ仕組みとなっていました。
問13	答え 3 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地の永代私有を認めるものです。それまでは一定期間後に土地を返還するルールでしたが、この法律により私有が認められたことで、農民や有力者による開墾が活発になりました。
問14	答え 1 万葉集	万葉集は、現存する日本最古の和歌集です。歌人としても有名な大伴家持が編纂に大きく貢献したとされており、奈良時代末期までに完成しました。収録されている歌は、天皇から防人、農民まで非常に幅広い階層の人々によって詠まれたものであり、当時の多様な人々の感情や生活文化が生き生きと表現されています。
問15	答え 4 国司	国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。
問16	答え 2 郡司	「郡司」は、地方の行政単位である郡の実務責任者です。かつて地方の有力豪族であった人々が任命されました。都から派遣された「国司」をサポートし、税の徴収や戸籍の管理などの実務を担当しました。